

文24 ①さる折しも、②白き鳥の、嘴

と脚と赤き、^③鴨の大ききなる、
水の上に遊び^③つつ魚を食ふ。

問一 傍線部①は「ちようどそのとき」という意味だが、「そのとき」とは次のどのときを指すのか。

ア「川のほとりに群れゐて…わび合へる」とき
イ渡し守が「はや舟に乗れ。」と言ったとき

ウ「乗りて渡らむと」したとき

問二 傍線部②の中の「嘴」は何を指すか。

ア目 イ羽 ウくちばし エ水かき

文24 ①さる折しも、②白き鳥の、嘴

と脚と赤き、^③鴨の大ききなる、
水の上に遊び つつ魚を食ふ。

問三 傍線部②は省略されている語
を補うと次のようになる。

白き鳥の、《嘴と脚と(が)赤き、
鴨の大ききなる》(やつが)

※《》の部分で、どうい
う「やつ」かを説明している。

「白き鳥の」の「の」は次のどれ？

ア「が」⇨主語を示す

主語が

例 国の乱るるによりて

イ「の」⇨限定

限定

例 国語⇩国語の教科書

ウ「で」⇨言い換え ※同格の「の」
で

例 焼きたてのパンの、

⇨

表面がパリッとしているやつ

文24 ①さる折しも、②白き鳥の、嘴

と脚と赤き、^③鴨の大ききなる、
水の上に遊び^③つつ魚を食ふ。

問四 傍線部②は次のどちらか。

ア 形容動詞「大きなり」の連体形
イ 名詞「大き」

＋断定の助動詞「なり」の連体形

※形容動詞の場合は上に**程度を表す言葉**がつけられる。

○いと静かなり

↓形容動詞

×いと王なり

↓名詞＋断定の助動詞「なり」

文24 ①さる折しも、②白き鳥の、嘴

と脚と赤き、^③鴨の大ききなる、
水の上に遊び^③つつ魚を食ふ。

問五 傍線部③は、ここでは次のどの意味？

ア くては

例.. A竹を取りつつ（竹を取っては）Bよろづのことに使ふ

※「A↓B」の繰り返し

イ くし続けて
※二種類の行動を交互に実施

例.. 思ひつつ（思い続けて）あり
けり ※同じ行動の継続

ウ くしながら

例.. 歌をA聞きつつ、B舟を漕ぐ
※二種類の行動を同時に実施

このページは空白ページです